

17-3 ウエペケレ「トランネ アオナ トウラ オカ アン」

解説

語り手：鍋澤ねぷき
聞き手・解説：萱野茂

萱野：この uepeker [散文の物語] のあれは、toranne a=ona tura oka=an [なまけ者の私の父親と一緒にいた] と

鍋澤：うん。

萱野：あたくしは一人のアイヌの子供でした、と。わたくしの父は、いわゆるからっぽやみ [なまけ者] で、寝てばかりおる、と。

鍋澤：iyohay [おやまあ]。

萱野：そして、あたしの母だけがいろいろなことをして、あたしたち生活をしておる。隣でおじさんが一人おって、そこへも母のつくったものを持って行って食べさしたりする。

そうするとおじさんのほうが弓矢をつくって、えー、私にくれ、それを持って帰ると、父のほうはそれを折って捨てたりというふうにする、と。

そうこうしておるうちに、えー、upas cironnup [オコジョ] といって、白キツネの、をみつけて、

鍋澤：うん。

萱野：それをその、守護神、守護神、いわゆる、それを自分の守り神としたので、

鍋澤：うん、うん。

萱野：なおさら、その、よかった、と。それが、まあ、それを守り神にしてから、いろいろな、その、病気の原因だとか困る原因だとか分かるようになったので、えー、みなに助けたというような筋で、始まっていくわけですね？

鍋澤：うん、うん。

萱野：これは、toranne a=onaha i=resu [なまけ者の私の父が私を育てる]
からっ……あ、いや、toranne a=onaha tura oka=an [なまけ者の私の父
と一緒に暮らしていた]、「からっぽやみの父と我育っておる」という題で
すね。

鍋澤：うん。

萱野：uepeker [散文説話]。